

九州国立博物館と地域の振興について

○四十五番（平井 一三君）登壇 自民党県議団の平井一三であります。

すがすがしい梅の香りの漂う中で、本二月議会議が開催されておりますけれども、太宰府天満宮も梅の花を見に来るたくさんのお客さんでにぎわっておられました。二年前の二月議会議で、台北故宮博物院展の開催に先立ちまして一般質問を行った際に、今後の課題として、来館者をふやす取り組みの必要性について質問をいたしました。二年越しの質問となります。それでは、通告に従いまして九州国立博物館と地域の振興について質問をいたします。

東京、京都、奈良の三つの国立博物館が美術系博物館であるのに対しまして、九州国立博物館は歴史系博物館として設立されたものです。九州が日本におけるアジア文化との交流の重要な窓口であった歴史的、そして地理的背景を踏まえ、日本文化の形成をアジア史的観点から捉える博物館として、これを基本理念に、日本の文化の形成について展示がされております。九州の歴史、文化を国内外に発信し、文化交流を促進する拠点として、九州国立博物館は大変大きな役割を果たしています。我々福岡県民にとっては、九博が広く人々に親しまれ、地域振興のかなめとして、今後さらに発展していくことが願いであり、そのような思いで今回の質問をいたします。

九博は、オープンから十一年目を迎えておりますけれども、年間来館者数は平均で百万人以上を維持しています。しかし、近年九十万人前後であった年が数年あり、全体の傾向としては、徐々に来館者数が減少しているように思われます。来館者数が減少していきますと、九州国立博物館運営のモチベーションは低下し、地域の活力も低下していくのではないかと懸念しているところであります。もちろん、来館者数ばかりが評価対象になるものではありませんが、いかにより多くの方に来てもらい、感動を覚えていただくことができるか、これが一番大切なことであろうと考えております。そのためには、今後も来館者数を維持あるいはふやしていく努力が必要であります。魅力ある特別展を継続して開催していくことも重要であり、これまでも人気のある特別展には多くの方が来館されました。しかし、いつまでもヒットを打ち続けることは難しいのではないのでしょうか。将来の集客を考え、十年、二十年計画で来館者数を維持、

増加させる取り組みが必要だと考えております。

そこで質問ですが、来館者数の推移をどのように分析されているのか、また年間来館者数の目標をどの程度と考えられておられるのか、そして来館者を維持あるいはふやすために、県としてはどのような取り組みを行っているのでしょうか、知事にお聞きをいたします。

昨年の十一月にロンドンで開催されたラグビーワールドカップを、小川知事、井上議長と一緒に県議会で視察を行った際に、大英博物館を視察する機会がありました。年間六百六十万人以上が訪れる大変にぎわいのある博物館で、我々が訪れたときも多くの方が来館されていました。そこで印象に残ったことが二点ありました。一つは、子供たちがたくさん訪れていたことです。多分、授業の一環であろうと思いますが、学校の先生とおぼしき人の引率のもと、クラス単位で熱心に説明に聞き入っていました。二つ目には、外国人観光客がたくさん訪れていたことでした。来館者の五六%が外国人観光客ということで、にぎわいを感じる要因の一つになっているものと考えられます。九州国立博物館の振興策については、いろいろな取り組みが考えられますが、今回は、子供に対する取り組みと、外国人観光客に対する取り組みについて質問をいたします。

まず、小中学生に対する取り組みについて質問をいたします。子供たちが日本や九州の歴史や文化、日本民族の生い立ちを学ぶ機会は大変貴重であり、歴史系博物館として開設された九博が活用されることは、その設立目的にかなうことであります。そして、小中学生のときに一度でも九博を訪れた経験があれば、将来、大人になったときに、再び九博に行ってみようという動機づけにつながっていくものではないでしょうか。博物館を日常的に気楽に訪れる、そのような文化の醸成ができればと思っております。福岡県内の小中学校で九博を訪れたのは、平成二十七年度が百三十五校で、県内全学校数の約一二%、生徒数は約一万人で、全生徒数の二%強にとどまっていると聞いています。また、特別展に訪れた小中学生は、全入館者の一から二%で推移をしています。大変残念なことだと思っております。

このような状況を踏まえ、まず教育長にお聞きをいたします。一つ目は、小中学校のときに、学校行事の一環として一度は九博を訪れ、勉強するような仕組みづくりができないかをお聞きいたします。

二つ目に、県立美術館などでは、学校から施設までの往復のバスの借り上げ料や観覧料を補助して、学芸員の説明を聞きながら作品を鑑賞するスクール・ミュージアム事業というものを実施しておりますけれども、九博を対象としたこのような事業も検討すべきと考えますが、いかがでしょうか。

次に、知事にお聞きをいたします。福岡県外の小中学校にもたくさん九博を訪れてほしいと思っております。その取り組みとして、修学旅行先に九博を組み入れるような積極的な働きかけはできないでしょうか。博物館設立時には、九州各県の知事の応援があったと聞いております。知事には、例えば、九州知事会などを通じて働きかけを行っていただきたいと思っておりますが、いかがでしょうか。

次に、外国人観光客の来館者数をふやす取り組みについてお聞きをいたします。外国人旅行者は、高額の旅費を支払い、限られたスケジュールの中で来館してもらわなければなりません。来てよかったと思い、その思いを次に向けて発信してもらうことが大切であります。県は現在、九州の観光推進に向けていろいろな取り組みを計画しております。九博も重要な観光資源の一つであります。

そこで、三点について知事に質問をいたします。まず一点目として、外国人の来館者数は、現在どの程度でしょうか。

二点目として、外国人来館者をふやす必要性について知事の認識をお聞きいたします。また、現在どのような取り組みを行っておられるかをお聞きいたします。

三点目に、外国人観光客に来館を促す方策として、例えば、パスポートを提示することによって入場料が半額になるなどの割引、あるいは混雑時の優先入場などの何らかのインセンティブを与えるようなサービスはできないか、知事の見解をお聞きいたします。

九州国立博物館の振興は、県民みんなの願いであります。前向きな答弁をお願いして、質問を終わります。（拍手）

○知事（小川 洋君）登壇 お答えを申し上げます。

まず初めに、九州国立博物館の来館者の推移と目標、あるいは今後の来館者

確保に向けた取り組みでございます。九州国立博物館の来館者数は、開館十年たちましたが、その間一千三百万人を超えているところであります。その年別の推移を見ていきますと、全体的には開館当初と比べて少し減少いたしておりますけれども、ここ数年は増加傾向となっております。年間来館者数につきましては、特に目標というものを定めてはおりませんけれども、ここ数年の経緯から、百万人というのが一年間の一つの目安になるのではないかというふうに考えております。

来館者を増加させていくために、九州国立博物館と連携をいたしまして、魅力ある特別展や、また常設展を企画したり、マスコミ各社の協力を得て、さまざまなメディア媒体を活用して、その広報も行ってまいっております。また、県独自の取り組みといたしましても、アジア各国の人形劇などエントランスホールを使った特色のあるイベント、また学校や地域におけるワークショップなどに取り組んでまいりました。さらに、昨年七月には、太宰府天満宮を訪れられる観光客の皆さんにPRするため、参道にミュージアムショップというのも開設をしたところでございます。

九州各県小中学校の修学旅行の誘致についてお尋ねがございました。九州国立博物館には、毎年九州各県から二百を超える小中学校が修学旅行で、また県内からも百五十を超える小中学校が社会科見学等で訪れていただいております。県といたしましては、これら小中学生にもっと博物館に来ていただけるよう、これまでも九州国立博物館と共同いたしまして、児童生徒の年齢に応じた説明における工夫、展示品や資料等に直接触れ、学習できるといった博物館でしか学べない独特の教育プログラムの開発、また展示の工夫といったものを行ってきているところであります。今後も、学校現場の御意見や要望というのを聞きながら、社会科見学、また総合学習の内容としてふさわしいものになるよう、さらなる工夫を重ねていきたいと思っております。また、九州各県の小中学校の修学旅行の行程に、この博物館を組み入れてもらうために、博物館が有しておりますこうした教育プログラムなどを、旅行業協会を通じて各旅行代理店に広報を行っていきますとともに、九州地域戦略会議のもとに置かれております九州・沖縄文化力推進会議、また私が属しております九州地方知事会など、そういった機会を利用して働きかけを行ってまいります。県内の小中学校に対しまして

も、教育委員会と連携をしながら、社会科見学、また総合学習の一環として組み込んでもらえるよう、校長会、歴史を担当する教員の研修会、また市町村の教育長会など、これまで以上にさまざまな機会というものを活用して、その広報を行ってまいります。

次に、外国人来館者の現状と増加に向けた取り組みについてお尋ねがございました。外国人の来館者につきましては、平成二十六年度の外国人向けのリーフレットの利用状況から推測をいたしますと、年間三万五千人程度が来館されておるのではないかとこのように思っております。外国の方々に御来館いただくためには、古くからアジアとの交流を行ってきた我が福岡県の歴史や文化への理解を促していくとともに、博物館自体の魅力によって、再び本県を訪れようとする動機づけにもつながっていく、また観光振興にも意義あることだというふうに認識をいたしております。このため、県といたしましては、国内を初め中国、台湾などの旅行代理店やクルーズ船会社などに対しまして営業活動をかけてまいりました。アジア太平洋子ども会議に参加をされた各国のお子さんたちに対しましても、この博物館の見学を呼びかけ、昨年度は三十七名、今年度は五十名の外国のお子さんたちが訪れておられます。今後は、さらに外国人来館者の拡大を図っていくため、こうした取り組みに加えまして、外国人ブローガーによる情報の発信、県内で開催をされます国際会議におけるエクスカージョン、それに取り入れてもらうための働きかけ、また交通機関の乗車券とセットになった割引制度など、新たなサービスの導入についても関係者の方と協議しながら、その検討を進めてまいります。

○教育長（城戸 秀明君）登壇 九州国立博物館に小中学生が訪れ、勉強する仕組みづくりについてでございます。九州国立博物館には、例えば元寇のときに蒙古軍が使用した武器や沖ノ島出土の国宝など、古代から大陸との交流の窓口である福岡に関係の深い歴史資料がたくさん展示されておまして、こうした実物に触れる体験的な学習は、本県の子供たちにとって有意義であると考えます。県教育委員会といたしましては、九州国立博物館の子供向けの紹介冊子や企画展示の案内を市町村や小中学校に周知するとともに、今後、学校教育における活用上の課題や要望を九州国立博物館に伝えるなどいたしまして、小中

学校が利用しやすくなる取り組みの工夫がさらに進みますよう、連携を図ってまいりたいと考えております。

九州国立博物館を対象に、スクール・ミュージアム事業などの活用が検討できないかというお尋ねでございます。スクール・ミュージアム事業は、一般財団法人福岡県教職員互助会との合同事業であり、学校が福岡県立美術館などの県立の博物館施設において、児童生徒の鑑賞、体験活動を行うことを支援するものでございます。事業の仕組みの関係で、受け入れ可能な数には限りがございますが、今後、九州国立博物館の意向を踏まえつつ、事業の活用を検討してまいります。